

漁況予報 い わ し

第 2 2 1 号

【2020年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は101トンで、前年(179トン)および平年^{※1}(424トン)を下回りました。また、8月は56トンで、前年(24トン)は上回ったものの、平年(281トン)を大きく下回りました。2か月合計では157トンで、前年(203トン)および平年(705トン)を下回りました。春シラスの漁獲量が近年にない低調であったことが今漁期の不漁に関係していると考えられます。

相模湾側のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。

魚体は、両月とも被鱗体長^{※2}(以下同)8-13cm(11cmモード)で、これは2020年生まれの0歳魚で、春生まれのマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものです。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は113トンで、不漁であった前年(18トン)および平年(99トン)を上回りました。8月は60トンで、不漁であった前年(3トン)を大きく上回り、平年(59トン)並みとなりました。2か月合計では173トンで、前年(21トン)および平年(158トン)を上回りました。

相模湾側のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。

魚体は、7月中旬までは9-11cmの小型成魚主体、7月下旬からは7-9cmの未成魚～小型成魚主体でした。

【シラス】

標本船データにより推定した7月の相模湾のシラスの漁獲量は、6月に近年にない好漁となった湾奥の海域で急減したことにより、前年及び平年を下回りました(前年比0.6倍、平年比0.8倍)。

8月に入ると、高温による水揚げ量の抑制や、海域によっては群れの成長によりカエリの割合が増加するなどのマイナスの要素がありましたが、漁獲量は持ち直し、8月としては前年および平年を大きく上回る漁獲量となりました(前年比2.1倍、平年比2.5倍)。

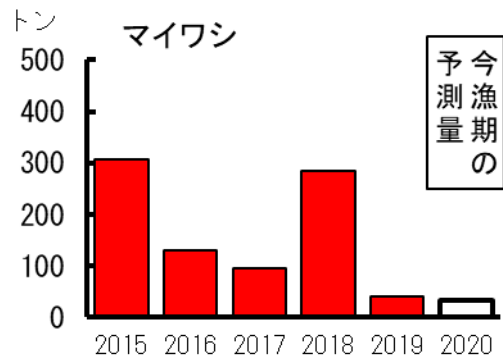
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、2020 年生まれの小羽マイワシ（11～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

漁獲量は、7～8 月のヒラゴ漁獲状況から、前年(40 トン)並みで、平年(162 トン)を大きく下回る、約 34 トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

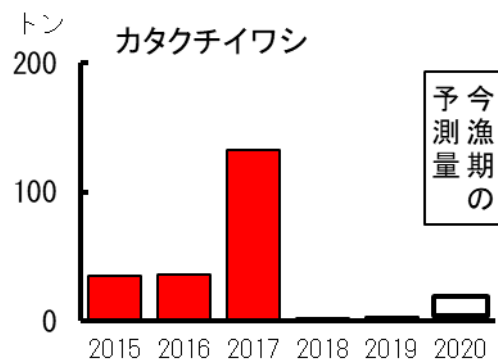


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

水揚量は、著しい不漁であった前年(3 トン)は上回り、平年(36 トン)を下回る約 15 トンと予測されます。

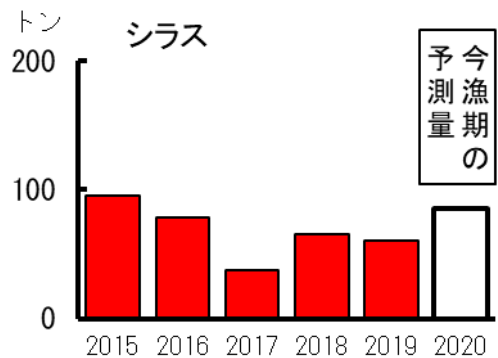


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、8月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

漁獲量は、前年を上回る約 85 トンと予測されますが、大蛇行している黒潮の北上流路の変動等により、相模湾内の漁場での流速が早まるようなことが多発する場合は、これを下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター 栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314